

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

教科	学科 自動車工学	科目	自動車総論		対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
教科担当		(二級整備士) 加賀美 直人・関根 健・細川 正博・福泊 篤史 中村 泰史・中村 智恵・臼居 史也						
実務経験教員授業	非該当	総時限	10時限	授業方法	講 義	評価方法	期末試験	
〔授業概要・目的〕								
＊ 三級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要な計算方法を習得する。								
＊ 整備士として業務で用いる計算式が理解でき、計算方法を習得する。								
〔授業の到達目標〕								
・車が走行に関わる数字が一連の姿としてつながるようになる								
・軸重、減速、増速、速度についての計算ができる								
・圧力、体積、圧縮比についての計算ができる								
〔学習評価の基準〕								
試験点数の基準を、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
〔使用教科書・教材等〕								
＊ 自前プリントをレジュメとして、別途配布。								
授 業 計 画 表								No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）						
	2	1. ギヤの役割とギヤ比（減速比）の求め方						
		2. ギヤ比から回転数、トルクの求め方						
		3. トランスミッションのギヤ比計算						
		4. 終減速比、デフとタイヤ回転数の計算						
		5. 総減速比						
		練習問題（各項目終了ごとに演習）						
	2	1. 排気量と総排気量の求め方		・円の面積、体積計算				
		2. 圧縮比の求め方		・圧縮比の意味の理解				
		3. 平均ピストン速度の求め方		・平均ピストン速度の意味の理解				
		4. カム・リフトとバルブ・クリアランス		・比率計算の理解				
		5. 出力（仕事率）の求め方		・出力（仕事率）の意味の理解				
		練習問題（各項目終了ごとに演習）		・練習問題による実力養成				

シラバス

[illegible]

シラバス

教科	学科 自動車工学	科目	パワーユニット構造	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1 年	作成月日	25/04/01
教科担当	(二級整備士) 加賀美 直人・関根 健・細川 止博・福泊 篤史 (一級整備士) 大塚 光善・春原 雄一						
実務経験教員授業	非該当	総時限	40時限	授業方法	講 義	評価方法	単元・期末試験
〔授業概要・目的〕							
* 二級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要となる三級自動車整備士レベルの二輪及び4輪自動車エンジンの基礎知識・技術を習得する。							
* 二輪については、ホンダ 2 輪サービスエンジニア H M S E 3 級習得に向けての基礎習得							
* 四輪については、ホンダ四輪サービスエンジニア 3 級に向けての基礎習得及び国家資格 3 級レベルの習得							
〔授業の到達目標〕							
① 二輪・四輪の各装置の概要・構造・機能・整備を理解する。							
② 燃料の精製・性状・添加剤・取り扱い上の注意を理解する。							
③ 潤滑剤の目的・種類を理解する。							
④ 基礎的な原理・法則の電気・磁気を理解する。							
〔学習評価の基準〕							
試験点数の基準を、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
試験点数の評価は 5 : 90 ～100点 4 : 75 ～ 89点 3 : 60 ～ 74点							
6 0 点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
〔使用教科書・教材等〕							
*『基礎自動車工学』『三級自動車整備士（総合）』 ：日本自動車整備振興会連合会『電装品構造』『内燃機関、燃料・油脂』：全国自動車大学校・整備専門学校協会							
授 業 計 画 表							N o . 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
	1	エンジン本体 1	作動/4サイクル・エンジン/4サイクル・エンジン（ジーゼル）/ 2 サイクル・エンジン				
	1	エンジン本体 2	2 構造・機能/シリンダ・ヘッド/シリンダ・ヘッド・ガスケット				
			シリンダ、クランクケース及びシリンダ・ブロック/ ピストン、ピストン・ピン及びピストン・リング				
	1	エンジン本体 3	ピストン・リング				
	1	エンジン本体 4	コンロッド及びコンロッド・ベアリング/クランクシャフト及びジャーナル・ベアリング				
	1	エンジン本体 5	バルブ機構				
	1	エンジン本体 6	トルク管理/締結の方法、注意点/行程関連（単気筒）				
	1	エンジン本体 7	4 気筒の説明/ 4 気筒の行程関連				
	1	エンジンの計算	トルクの計算				
	1	電装基礎 1	電気の基礎				
	1	電装基礎 2	電気回路				
	1	磁気、コイル	磁気/磁場/磁界および磁力線/磁束と密度/電流による磁界/コイル/電磁力/電磁誘導				
	1	リレーとモータ	リレーと回路				
	1	バッテリー 1	第 5 章 エンジン電気装置・				

シラバス

[illegible]

シラバス

教科	学科 自動車工学	科目	シャシ構造	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1 年	作成月日	25/04/01
教科担当	(二級整備士) 中村 泰史・中村 智恵・臼居 史也 (一級整備士) 春原 雄一						
実務経験教員授業	非該当	総時限	40時限	授業方法	講 義	評価方法	単元・期末試験
〔授業概要・目的〕							
二輪及び四輪自動車のシャシ系装置について、基本構造と名称及び作動の理解を目的とする。							
〔授業の到達目標〕							
＊ 基本構造と名称の習得 ＊ 各部品の役割と機能の習得 ＊ 作動（動き）と動力伝達の習得							
＊ 電気的基础知識の習得 ＊ 電気装置の作動の習得 ＊ 電気的基础計算の習得 ＊ 電気装置の作動の習得							
※整備士としての、心構え、基礎知識							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）							
〔使用教科書・教材等〕							
三級自動車総合、電装品構造、HMSE3級、テキスト、他							
授 業 計 画 表							No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
	4	●授業項目（前半） 動力伝達装置 導入 クラッチ1, 2, 3					
		Ⅱ 動力伝達装置					
		1 概要/ 2 構造・機能					
	3	●授業項目（後半） トランスミッション1、2、3					
	1	●授業項目（後半） トランスファ、L S D					
	2	●授業項目（前半） プロペラシャフト、ドライブシャフト					
	2	●授業項目（前半） ディファレンシャル					
	2	●授業項目（前半） アクスル、サスペンション1、2					
	2	●授業項目（前半） ステアリング装置1、2 （ボール・ナット型を除く）					
	2	●授業項目（後半） ステアリング装置 （ボール・ナット型）					
	2	●授業項目（前半） ホイール、タイヤ1、2					
	3	●授業項目（後半） ブレーキ1、2、3					
	1	●授業項目（後半） フレーム、ボデー（四輪、二輪）					
	2	●授業項目（後半） 湿式多板クラッチ（二輪）					
	1	●授業項目（後半） トランスミッション（二輪）					
	1	●授業項目（前半） 二輪サスペンション					

シラバス

[illegible]

シラバス

教科	学科 自動車整備	科目	パワーユニット整備	対象級	専門課程	作成月日	25/04/01
					サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1 年	開講期	後期
教科担当	(二級整備士) 加賀美 直人・関根 健・細川 止博・福泊 篤史 (一級整備士) 大塚 光善・春原 雄一						
実務経験教員授業	非該当	総時限	34時限	授業方法	講義	評価方法	単元・期末試験
〔授業概要・目的〕							
* 二級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要となる三級自動車整備士レベルの二輪及び4輪自動車エンジンの基礎知識・技術を習得する。							
* 二輪については、ホンダ2 輪サービスエンジニアH M S E 3 級習得に向けての基礎習得							
* 四輪については、ホンダ四輪サービスエンジニア 3 級に向けての基礎習得及び国家資格 3 級レベルの習得							
〔授業の到達目標〕							
① 前期学習内容を再確認しながら基本的な点検、測定、良否判定、調整方法を習得させる。							
② 電子制御燃料噴射装置の基本的な構造、機能を理解する。							
③ 排気ガス対策の基本的な構造、機能を理解する。							
④ 基礎的な原理・法則、自動車の諸元に関わる計算方法を理解する。							
〔学習評価の基準〕							
試験点数の基準を、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
〔使用教科書・教材等〕							
*『基礎自動車工学』『三級自動車整備士（総合）』 ：日本自動車整備振興会連合会 『電装品構造』『内燃機関、燃料・油脂』：全国自動車大学校・整備専門学校協会							
授 業 計 画 表							N o . 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
	2	前ローテ	・前期－後半の学科内容を復習				
	2	燃焼・排出ガス	・燃焼に必要な空気量/熱効率/熱の移動/燃焼の状態/排出ガス				
	2	ジーゼル・	・内燃機関の分類（作動方式による分類、燃焼方式による分類、着火又は点火方式による、				
		エンジン	燃料の種類及び供給方式による分類)				
			ジーゼル・エンジン（概要、作動、燃焼、排出ガス）				
	2		・エンジン本体（構造・機能）/コモンレール式高圧燃料噴射装置				
	2	始動装置	リダクション式・整備				
	1	充電装置	充電制御 1				
	1	充電装置	充電制御 2				
	2	バッテリー	充電と異常検知/充電方法				
	1	電子制御装置	概要・構造/機能				
	1	電子制御装置	吸気系統/燃料系統				
	1	電子制御装置	点火/制御系統				
	2	復習	これまでの練習問題				

シラバス

[illegible]

シラバス

教科	学科 自動車整備	科目	シャシ整備			対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
教科担当	(二級整備士) 中村 泰史・中村 智恵・臼居 史也 (一級整備士) 春原 雄一								
実務経験教員授業	非該当	総時限	34時限	授業方法	講義	評価方法	単元・期末試験		
〔授業概要・目的〕									
二輪及び四輪自動車のシャシ系各装置について、基本構造の復習と更なる理解度の向上を目的とする									
〔授業の到達目標〕									
二輪及び四輪自動車シャシの各装置について、基本構造の理解度を上げると共に、整備法の基本を理解させる。									
各部品の点検，調整，測定，メンテナンスの要領習得									
四輪車両において、定期点検（12カ月点検）及び記録簿の記入要領の習得									
〔学習評価の基準〕									
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。									
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの									
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点									
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。									
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）									
〔使用教科書・教材等〕									
三級自動車整備士（総合），電装品構造，三級二輪自動車，HMSE3級，テキスト，他									
授 業 計 画 表								No.1	
実務経験	標準時限	授業内容（項目）							
	2	●授業項目（前半） 走行性能曲線							
	2	●授業項目（前半） クラッチ整備法							
	1	●授業項目（後半） 安全装置							
	2	●授業項目（前半） トルク・コンバータ							
	2	●授業項目（前半） A T							
	1	●授業項目（後半） 動力伝達装置整備法							
	1	●授業項目（後半） アクスル・サス整備法							
	1	●授業項目（後半） タイヤ・ホイール整備法							
	4	●授業項目（後半） ホイール・アライメント1，2，3，4							
	2	●授業項目（前半） ブレーキ整備法							
	2	●授業項目（後半） 制動倍力装置							
	1	●授業項目 Pバルブ							
	1	●授業項目（後半） 定期点検の要領							
	1	●授業項目（前半） 基礎理論（復習）							
	2	●授業項目（後半） 半導体							
	1	●授業項目（前半） 灯火装置							

シラバス

[illegible]

シラバス

教科	学科 自動車整備	科目	二輪車整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
教科担当	(二級整備士) 加賀美 直人・関根 健・細川 正博・福泊 篤史 中村 泰史・中村 智恵・臼居 史也						
実務経験教員授業	非該当	総時限	11時限	授業方法	講 義	評価方法	期末試験
〔授業概要・目的〕							
二輪自動車の基本構造・機能を理解し、安全で確実な点検・整備ができる技術と知識を習得させる							
整備士としての責任感や法令遵守の意識を育てることを目的とする							
〔授業の到達目標〕							
＊ 基本構造と名称の習得確認							
＊ 各部品の役割と機能の習得確認							
＊ ホンダ2輪サービスエンジニアH M S Eの基礎習得確認							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
〔使用教科書・教材等〕							
三級自動車整備士（総合）、ホンダH M S E 3級テキスト（二輪）、電卓							
							No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
	1	二輪PU 1	二輪復習 ボルト・ナット、ワッシャ				
	1	二輪PU 2	ピストン、ピストン・ピン及びピストン・リング、クランク・シャフト、バルブ機構				
	1	二輪PU 3	冷却装置 構造機能				
	1	二輪PU 4	始動装置 概要、整備方法/点火装置、整備方法、点火順序				
	1	二輪PU 5	燃料及び潤滑剤 各作用、二輪車用エンジン・オイルの特徴				
	1	二輪シャシ 1	復習 動力伝達装置				
	1	二輪シャシ 2	アクスル及びサスペンション・ステアリング装置				
	1	二輪シャシ 3	ホイール及びタイヤ、ホイール・アライメント				
	1	二輪シャシ 4	ブレーキ装置、フレーム及びボデー、ブレーキの点検				

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	基礎整備作業実習	対象級	専門課程	作成月日	25/04/01
					サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	開講期	前期
教科担当	(二級整備士) 加賀美 直人・関根 健・細川 正博・福泊 篤史 中村 泰史・中村 智恵・佐藤 和美・松沢 高志・臼居 史也・竹村 敬一郎						
実務経験教員授業	非該当	総時限	10時限	授業方法	講義	評価方法	
〔授業概要・目的〕							
実習レポートの作成							
E機器/二輪車 ・工具の名前を覚えて使い方を理解 ・二輪自動車の理解							
C工具導入_/ジャッキ ・お客様の財産を扱うという意識を持たせる ・整備作業を安全にのルールを理解							
〔授業の到達目標〕							
・実習レポートが作成できる							
・トラスター内の工具チェックができる							
・車両チェック、CSキットの脱着が確実に行える							
・車両のジャッキアップ、ダウン時に安全作業が確実に行える							
〔学習評価の基準〕							
評価なし							
〔使用教科書・教材等〕							
・レポート作成 (ipad)							
授 業 計 画 表							N o . 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
	1	・実習レポートの目的/評価ポイント説明/注意事項					
	1	・実物の見学/レポート作成、例題による演習					
	1	・実習説明、工具説明、トラスター工具チェック					
	1	・工具（トルクレンチ）の使い方説明、測定作業ノギスの使い方説明					
	1	・二輪自動車に触れる、スーパーCUBの歴史					
		・部品（キャリア）の脱着作業・ノギス測定作業					
		・道路運送車両法の保安基準について説明					
	1	・日常点検について説明、日常点検動画					
	1	・実習場使用の注意事項					
	1	・ガレージジャッキ使用方法説明（動画含む）、リジッドラック、ジャッキアップ時の注意事項					
	1	・十字レンチ使用によるトルクダウン/タイヤ脱着/タイヤデプスゲージ使用方法					
	1	・タイヤ残量測定/タイヤ取付時の注意点共有/トルクレンチ説明、使用方法					

シラバス

教科	実習 自動車整備作業	科目	パワーユニット構造	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
教科担当	(二級整備士) 加賀美 直人・関根 健・細川 止博・福泊 篤史 (一級整備士) 大塚 光善・春原 雄一						
実務経験教員授業	非該当	総時限	88時限	授業方法	演 習	評価方法	単元・期末試験 レポート評価
〔授業概要・目的〕							
* 二級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要となる三級自動車整備士レベルの二輪及び4輪自動車エンジンの基礎知識・技術を習得する。							
* 二輪については、ホンダ2輪サービスエンジニアH M S E 3級習得に向けての基礎習得							
* 四輪については、ホンダ四輪サービスエンジニア3級に向けての基礎習得及び国家資格3級レベルの習得							
〔授業の到達目標〕							
① 整備士としての、心構え、基礎知識及び基本作業が実践できること。							
② 二輪・四輪の各装置の概要・構造・機能・整備を理解する。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
試験点数の基準を、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）							
〔使用教科書・教材等〕							
*『基礎自動車工学』『三級自動車整備士（総合）』：日本自動車整備振興会連合会 『電装品構造』：全国自動車大学校・整備専門学校協会、『エンジン構造電装テキスト』『実習用テキスト』							
授 業 計 画 表							N o . 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
	8	GX120	（前半）				
		分解・組立	・4サイクル・ガソリン・エンジン（OHV型）の基本構造の理解				
			・4サイクル・ガソリン・エンジンの行程の理解				
			・部品名称と機能の理解				
			・分解・組立の作業技術の習得				
	4	二輪4サイクル	（前半）				
		エンジンの構造	・4サイクル・ガソリン・エンジン（OHC型）の行程、部品名称、役割の理解				
		C50シリンダ	・OHC型空冷単気筒ガソリン・エンジンの分解・組立の習得				
		分解組立					
	8	R20Aシリンダ・	（前半）				
		ヘッド分解・	・4気筒の行程関連を理解				
		組立	・タイミング・チェーンの脱着技術の習得				
			・シリンダ・ヘッドの構造・機能を理解				
			・分解・作業の技術を習得				

シラバス

大教科目	実習 自動車整備作 業	小教科 目	パワーユニット構造	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
						開講期	前期
授 業 計 画 表							N o . 2
実務経験	標準時間	授業内容（項目）					
	2	電装基礎	(前半)				
			・アナログ式サーキット・テストの取り扱いを習得する				
			・電装の基礎的な原理を理解する				
	4	ねじ切	(前半)				
		、ヘリサート	・基礎自動車整備作業に用いる主な工具				
			・ねじ切り加工、ヘリサート加工を習得				
	4	電流と磁気	(前半)				
			・電装の基本的な原理を理解				
	4	始動装置	(前半)				
		(単品)	・始動装置の回路の構成を理解				
			・スタータ・モータの作動を理解				
			・直結式スタータ・モータの構成部品を理解				
			・直結式スタータ・モータの分解・組立技術を習得				
	4	始動装置	(前半)				
		(実車)	・バッテリーの点検技術を習得				
			・スタータ・モータの作動回路、各部の名称を理解				
			・リダクション式スタータ・モータ(外接式) の分解・組立技術を習得				
	2	スキルチェック	(前半)				
			・実習授業のスキル確認を実施				
	4	D16Aエンジン	(後半)				
		分解・組立	・SOHC型ガソリン・エンジンのタイミング・ベルト脱着作業の習得				
			・SOHC型、DOHC型のバルブ機構の理解				
			・4サイクル・ガソリン・エンジンの行程管理を理解				
	16	R20A	(後半)				
		冷却装置・	・シリンダ・ヘッドの分解・組立の復習				
		潤滑装置	・冷却装置の部品名称、構造、機能を理解				
			・冷却装置の循環経路を理解				
			・潤滑装置の部品名称、構造、機能を理解				
			・潤滑装置のオイル循環経路を理解				
			・シリンダ・ブロックの分解・組立手順を習得				
	2	行程関連	(後半)				
			・行程関連を理解/バルブ・クリアランスの測定技術習得/実機エンジンより点火順序が判断				

シラバス

[illegible]

シラバス

教科	実習 自動車整備作業	科目	シャシ構造	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
教科担当	(二級整備士) 中村 泰史・中村 智恵・佐藤 和美・松沢 高志・臼居 史也・竹村 敬一郎 (一級整備士) 春原 雄一						
実務経験教員授業	非該当	総時限	88時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元・期末試験
二輪及び四輪自動車シャシの各装置について、基本構造，作動，機能，名称の習得を目的とする。							
〔授業の到達目標〕							
＊ 基本構造と名称の習得 ＊ 各部品の役割と機能の習得 ＊ 作動（動き）と動力伝達の習得							
＊ 電気の基礎知識を習得 ＊ サーキットテストの構造を理解し、正しい取り扱いの習得							
※ 二輪については、HMSE-3級修了に向けての基礎習 ※ 整備士としての、心構え，基礎知識，及び基本作業							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）							
〔使用教科書・教材等〕							
三級自動車整備士（総合），基礎自動車整備作業，電装品構造，HMSE 3 級，テキスト，他							
授 業 計 画 表							No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
	4	日常点検＋ジャッキアップ 復習					
		トルク・レンチ					
		タイヤ・ゲージ					
		デプス・ゲージ					
		Ⅷ－1 ガレージ・ジャッキ					
		・日常点検					
	4	タイヤ&ホイール脱着					
		・タイヤ・チェンジャ					
		・ホイール・バルサ					
	4	乾式単板クラッチ					
		トランスミッション脱着					
	6	F R用トランスミッション分解・組立					
	4	ファイナルギヤ及びディファレンシャルとドライブシャフト					
		機能，名称と種類					
		アジャスト・スクリュー式の構造，					
		ドライブ・シャフトブーツ交換					

シラバス

大教科目		実習 自動車整備作 業		小教科目	シャシ構造	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
								開講期	前期
授 業 計 画 表									N o . 2
実務経験	標準時間	授業内容（項目）							
	4	サスペンションとアクスル							
		サスペンション、アクスルの構造理解							
		ストラット型（独立懸架）							
	4	ブレーキ装置 1							
		ブレーキ装置の観察							
		マスタ・シリンダ（単品）							
		ディスク式ブレーキ（フロント）							
	4	ブレーキ装置 2							
		ドラム・ブレーキ（リヤ）							
	4	ステアリング操作機構・ギヤ機構（ラック・ピニオン型）							
		ステアリング操作機構							
		ラック・ピニオン型ステアリング							
		●授業項目（後半） ボール・ナット単品							
		使用教材 ボール・ナット型ステアリンク単体							
	4	ステアリング・ギヤ機構（ボール・ナット型）							
		ボールナット型ステアリング機構							
	2	〔 2 輪〕ベルト式無段変速機（V マチック）							
		構造，機能，名称，役割							
	4	〔 2 輪〕フロント・フォーク							
		フロント・フォーク分解，組立							
		名称，種類，特徴，各部の役割							
	4	〔 2 輪〕湿式多板クラッチ＜A p e＞							
		名称，種類，特徴，各部の役割							
	4	電気工作 はんだ、配線							
	4	電気基礎							
		・配電ボードでの結線と測定							
	2	電圧測定 1（単品）							
		プラス制御回路							
		マイナス制御回路							
	2	電圧測定 2（復習）							
		不具合箇所の特定							
	4	灯火装置 1							
		灯火装置の配線図、配線色の解読、スイッチ類の導通点検，接続							

シラバス

[illegible]

シラバス

教科	実習 自動車整備作業	科目	パワーユニット整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
教科担当	(二級整備士) 加賀美 直人・関根 健・細川 止博・福泊 篤史 (一級整備士) 大塚 光善・春原 雄一						
実務経験教員授業	非該当	総時限	94時限	授業方法	講義	評価方法	単元・期末試験 レポート評価
〔授業概要・目的〕							
* 二級整備士試験合格レベルに到達する上で、必要となる三級自動車整備士レベルの二輪及び4輪自動車エンジンの基礎知識・技術を習得する。							
* 二輪については、ホンダ2輪サービスエンジニアH M S E 3級習得に向けての基礎習得							
* 四輪については、ホンダ四輪サービスエンジニア3級に向けての基礎習得及び国家資格3級レベルの習得							
〔授業の到達目標〕							
① 整備士としての、心構え、基礎知識及び基本作業が実践できること。							
② 二輪・四輪の各装置の概要・構造・機能・整備を理解する。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
試験点数の基準を、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）							
〔使用教科書・教材等〕							
*『基礎自動車工学』『三級自動車ガソリン・エンジン』『三級二輪自動車』『基礎自動車整備作業』：日本自動車整備振興会連合会、『電装品構造』：全国自動車大学校・整備専門学校協会、『パワーユニット整備実習テキスト』							
授 業 計 画 表							N o . 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
	2	前期エンジン	(前半)				
		復習	・D 1 6 Aエンジンの復習				
			・R 2 0 Aエンジンの復習				
	2	前期電装	(前半)				
		復習	・点火装置の復習				
			・充電装置の復習				
			・燃料装置の復習				
			・吸排気装置の復習				
			・始動装置の復習				
	4	CB1100	(前半)				
		分解・組立	・二輪車エンジンの主要パーツ、基礎知識				
			・二輪車空冷式エンジン DOHCシリンダ・ヘッド分解・組み立て				
			・自動車の諸元				

シラバス

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科 目	エンジン整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
授 業 計 画 表							後期
No.2							
実務経験	標準時間	授業内容（項目）					
	4	ジーゼル・	（前半）				
		エンジン	・汎用ジーゼル・エンジンの分解・組立				
		分解・組立					
	4	始動装置	（前半）				
		（単品）	・始動装置の復習				
			・始動装置の整備				
	4	始動装置	（前半）				
		（実車）	・バッテリーの点検				
			・始動装置の点検				
	4	充電装置	（前半）				
		（単品）	・充電装置の回路と点検				
	8	CB400SF	（前半）				
		分解・組立	・実動二輪車整備の事例				
			・二輪車整備（DOHCエンジン本体、冷却装置）				
	4	充電装置	（前半）				
		（実車）	・実車上での充電装置の測定、点検				
	4	電子制御	（前半）				
		装置（単品）	・エンジン単体の電子制御装置				
			・排出ガス浄化装置				
	4	電子制御	（前半）				
		装置（実車）	・実車上の電子制御装置				
	2	実習電装	（前半）				
		スキルチェック	・後期-前半の実習授業内容の復習				
	2	エンジン実習	（前半）				
		スキルチェック	・後期-前半の実習授業内容の復習				
	2	前ローテ	（後半）				
		電装復習	・後期-前半の実習授業内容の復習				
	2	前ローテ	（後半）				
		エンジン復習	・後期-前半の実習授業内容の復習				
	8	R20A	（後半）				
		エンジン整備	・エンジン本体の整備項目、測定具、測定方法及び良否判定の習得				
	4	GX120測定	（後半）				
			・エンジン本体の整備項目、測定具、測定方法及び良否判定の習得				

シラバス

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科 目	エンジン整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
						開講期	後期
授 業 計 画 表							N o . 3
実務経験	標準時間	授業内容（項目）					
	4	E 0 7 Z	(後半)				
		分解・組立	・エンジン単体の電子制御装置類の復習				
			・スロットル・ポジション・センサの点検				
			-接点式スロットル・ポジション・センサの抵抗測定				
			・ 3 気筒の行程関連				
	2	点火装置	(後半)				
		(単品)	・点火装置の回路全体を理解する				
	2	点火装置	(後半)				
		(実車)	・実車点火装置の整備の習得				
	4	二輪始動装置	(後半)				
			・二輪車の始動装置の構造、機能を理解する				
			・二輪車の始動装置の整備を習得				
	4	二輪点火装置	(後半)				
			・二輪車の点火装置の構造、機能を理解する				
			・二輪車の点火装置の整備を習得				
	4	二輪充電装置	(後半)				
			・二輪車の充電装置の構造、機能を理解する				
			・二輪車の充電装置の整備を習得				
			・パーツ・リストの見方				
	4	エンジン	(後半)				
		総合整備	・特定整備記録簿に記載されているエンジン整備の習得				
	2	実習スキル	(後半)				
		チェック	・後期-後半の実習授業の復習				
	4	エンジン測定・	(後半)				
		整備	・測定作業				
			・エンジン調整				
			・エンジン組立作業				
			・ねじ加工				
			・ブローケン・ボルト及びねじ切作業				

シラバス

教科	実習 自動車整備作業	科目	シャシ整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
教科担当	(二級整備士) 中村 泰史・中村 智恵・佐藤 和美・松沢 高志・臼居 史也・竹村 敬一郎 (一級整備士) 春原 雄一						
実務経験教員授業	非該当	総時限	94時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 単元・期末試験
〔授業概要・目的〕							
二輪及び四輪自動車シャシの各装置について、基本構造，作動，機能，名称の復習と各装置の整備法の習得を目的とする。							
〔授業の到達目標〕							
各装置の点検，調整，測定の要領を習得、定期点検（12カ月点検）導入，及び記録簿の記入要領の習得							
シャシ電装品各装置の機能・構造・作動・整備項目の理解、電装品の簡単な点検と良否判定の習得							
H M S E 3 級資格取得に向けての習熟 ※整備士としての、心構え，基礎知識の習熟と、応用作業が実践出来る基礎の習得							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）							
〔使用教科書・教材等〕							
三級自動車整備士（総合），電装品構造，三級二輪自動車，HMSE 3 級，テキスト，他							
授 業 計 画 表							N o . 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
	4	●授業項目（前半） 導入実習					
		日常点検、オイル交換他					
	4	●授業項目（前半） A T 1					
		オートマチック・トランスミッション構造					
	4	●授業項目（前半） A T 2					
		油圧制御の理解					
	4	●授業項目（前半） タイヤ復習					
		タイヤ・ホイール整備Ⅱ					
		タイヤの取り外し、取り付け手順（前期復習）					
		タイヤの諸元の読み取り・サイズの算出					
		タイヤ・ホイールの脱着/ホイール・バランス					
		車載工具とタイヤ・ホイールの点検・測定					
	8	●授業項目（前半） ブレーキ					
		ブレーキ整備Ⅰ、Ⅱ					
		フロント・ディスク・ブレーキ（単品） リヤ・ブレーキ単品での構造，機能復習					
		フロント・ディスク・ブレーキ（実車）					

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	シャシ整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1 年	作成月日	25/04/01
						開講期	後期
授 業 計 画 表							N o . 2
実務経験	標準時間	授業内容（項目）					
	4	●授業項目（後半） 制動倍力装置					
		制動倍力装置構造とPバルブ構造					
	4	●授業項目（後半） 制動倍力装置の点検					
		制動倍力装置の機能点検					
	8	●授業項目（後半） ホイール・アライメント					
		●授業項目（前半） クラッチ単品 2					
		使用教材 エンジン、トランスミッション単体					
	4	クラッチの作動点検と整備					
		クラッチ脱着（前期復習）					
	4	●授業項目（前半） （二輪）リヤ・サスペンション					
		リア・フォーク種類と特徴					
	4	●授業項目（後半） （二輪）ディスク・ブレーキ					
		構造，機能，整備法					
	4	●授業項目（後半） 1 2 ヶ月点検（二輪）					
		1 2 ヶ月点検（2 輪）					
	4	●授業項目（後半） 1 2 ヶ月点検（4 輪）					
		1 2 ヶ月定期点検＋日常点検					
	4	●授業項目（後半） 電装 復習実習（P W）					
		復習					
		電圧、電流、測定					
		回路の組み立て					
		パワー・ウインド実習の予習					
	4	●授業項目（後半） 半導体					
		ダイオード、トランジスタ					
		論理回路、コンデンサ回路					
	4	●授業項目（前半） 保安装置 1（ワイパ）					
		保安装置 1（ウインドシールド・ワイパ）					
	4	●授業項目（前半） 保安装置 2（計器）					
	4	●授業項目（前半） 灯火装置 1（単品）					
	4	●授業項目（前半） 灯火装置 2（四輪）					
	2	●授業項目（後半） 灯火装置 3（2 輪）					
	2	●授業項目（後半） 灯火装置 4（復習）					
	2	●授業項目（後半） パワーウインド					
	4	●授業項目（後半） エアコン					

シラバス

[illegible]

シラバス

教科	一般	科目	安全運転学			対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
教科担当		(二級整備士) 加賀美 直人・関根 健・細川 正博・福泊 篤史 中村 泰史・中村 智恵・佐藤 和美・松沢 高志・臼居 史也・竹村 敬一郎							
実務経験教員授業	非該当	総時限	14時限	授業方法	講 義	評価方法			
〔授業概要・目的〕									
・自動車業界の一員であることを自覚し、規律の大切さと他人との協調を養う。									
・安全運転の思想『人間尊重』を学ぶ。									
〔授業の到達目標〕									
① 安全運転を中心に実施するが、整備時の安全に対する取り組みまで広げて理解させる									
これらにより、交通社会において安全運転の実践のみならず、									
職場（具体的には整備作業）での安全作業能力を養う。									
〔学習評価の基準〕									
評価なし									
〔使用教科書・教材等〕									
HONDA危険予測トレーニング（KYT）									
セーフティ・ライディング、セーフティー・ドライビング									
実地訓練、桶川レインボーモータースクール									
授 業 計 画 表									No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）							
	8	①四輪安全運転講習							
		桶川レインボーモータースクールにて実施							
		交通教育センターもてぎ							
	4	K Y T （危険予知トレーニング）Ⅰ				・危険予知のトレーニング			
		●三つのフラグ				・グループによる討議／発表			
		・前心配と後心配							
	2	安全運転学				①Hondaが交通安全に取り組む理由			
						②これまでの歴史			
						③いま皆さんに求められていること			
						④車両を扱う心構え			
						⑤課題			

シラバス

教科	一般	科目	接客実務	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
教科担当	(二級整備士) 加賀美 直人・関根 健・細川 正博・福泊 篤史 中村 泰史・中村 智恵・佐藤 和美・松沢 高志・臼居 史也・竹村 敬一郎						
実務経験教員授業	非該当	総時限	10時限	授業方法	講 義	評価方法	
〔授業概要・目的〕							
＊ 一年生に対し働くことの意味を理解させ、サクセスプランに結び付ける。							
＊ 特に販社に対し、興味をもたせるようにする。							
〔授業の到達目標〕							
① 就職活動時に必要となるスキルを身に付けさせる。							
② 広く接遇の基本マナーを身に付け、最小限のマナーを身につけさせる。							
③ H O N D A の企業活動の理解を通じ、接遇の基本を理解する。							
④ コミュニケーション能力の向上を図る。							
〔学習評価の基準〕							
評価なし							
〔使用教科書・教材等〕							
専科研修新人サービススタッフの基礎と接遇							
授 業 計 画 表							N o . 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
	1	① HONDAの企業活動					
		HONDAの基本理念（自立・平等・信頼）					
		及び社是・運営方針・企業活動					
		② 企業の利益とは					
		販売店様の利益					
		利益の追求と確保					
	1	① 接遇の基本 1					
		自己認識の重要性					
		自分の強み、性格、タイプを知る					
		自己紹介と他己紹介					
		接遇の基本の1つである傾聴のスキル					
	1	① 仕事に対する興味と価値観					
		各自の興味と価値観を洗い出す					

シラバス

教科	一般	科目	実践自動車整備			対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
教科担当	(二級整備士) 加賀美 直人・関根 健・細川 止博・福泊 篤史 中村 泰史・中村 智恵・佐藤 和美・松沢 高志・臼居 史也・竹村 敬一郎								
実務経験教員授業	非該当	総時限	12時限	授業方法	講 義	評価方法			
〔授業概要・目的〕									
自動車整備士の役割、社会的使命とコンプライアンスを理解する									
タイヤ空気充てん作業特別教育の受講									
〔授業の到達目標〕									
●コンプライアンス									
・各ハラスメントを理解してる									
・交通事故、交通違反がない									
・3級整備士程度の道路運送車両法を理解している									
●「タイヤ空気充てん作業」									
・「タイヤ空気充てん作業」の特別教育が終了している									
〔学習評価の基準〕									
評価なし									
〔使用教科書・教材等〕									
ホンダ学園キャンパスガイド、図解3級法令、タイヤ充填テキスト									
実務経験	標準時限	授業内容（項目）							
実務経験	標準時限	授業内容（項目）							
	1	2●自動車整備士の使命 2__自動車整備士としての心構え							
		学園生活をしていくうえで必要なルールと、基本的な社会人基礎力に必要な内容を理解する							
		服装、身だしなみ、言葉使い							
		時間意識（時間管理、ウォーニングシステム）							
		コンプライアンス理解（法令遵守、学則遵守）							
		3 S の徹底							
	1	20●個人情報保護法__個人情報とは、取扱いルール							
		学則説明_肖像権・著作権・商標権・個人情報							
		S N S モラルとマナー							
		S N S モラルとマナー							
		10●道路交通法 1 __安全運転・ヒヤリハット							
		安全運転学（KYT）の中で、再度指導							

シラバス

大教科目	一般	小教科目	実践自動車整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1年	作成月日	25/04/01
						開講期	通期
授 業 計 画 表							N o . 2
実務経験	標準時間	授業内容（項目）					
	1	15●刑法1__薬物、盗難、闇バイト、時事ニュース、留学生犯罪					
		賞罰規程 別表 2 学則違反の内容と罰の運用例					
		(1) 道路交通に関して極めて好ましくない行為があったとき					
		(2) 麻薬、覚醒剤、賭博などを行い、またはこれら該当物を携帯した					
		(3) 学校教具・機器材または、他人の所有物を横領・窃盗したとき					
		(6) 社会秩序に関し、極めて好ましくない行為があったとき					
	1	11●道路交通法 2 __交通違反（違反、速度超過）免停、取消、欠格期間					
		賞罰規程 別表 3 交通違反と事故の内容と罰の運用例					
		運転免許の重要性					
		※本校は、交通機関にたずさわる関係上、特に厳しく処罰する。					
		死亡事故 酒酔い運転					
		重症事故 速度超過					
		軽傷事故 無免許運転					
		被害者 違反点数					
		加害者 その他の違反					
		人身事故					
		物損事故					
	1	13●道路交通法 4 __交通事故を起こすと					
		賞罰規程 別表 3 交通違反と事故の内容と罰の運用例					
		二輪車乗車中死者の損傷主部位（構成率）					
		胸部プロテクター着用をお願い					
		過失割合					
		「自転車運転者講習」制度について					
	1	14●自動車保険__自賠責保険と任意保険とその賠償内容					
		自転車損害保険等への加入義務について					
		高額賠償事例					
		本校の学生による事故事例					
		過失割合					
		「自転車運転者講習」制度について					

シラバス

大教科目	一般	小教科目	実践自動車整備	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 1 年	作成月日	25/04/01
						開講期	通期
授 業 計 画 表							N o . 3
実務経験	標準時間	授業内容（項目）					
	1	9●道路運送車両法 5 __ 保安基準・不正改造					
		通学車両及び寮生車両許可					
		道路運送車両法の保安基準、近接排気騒音の規制値					
		近接排気騒音の規制値					
		装備品について					
		18●ハラスメント 1 __ ハラスメントとは、防止に向けて					
		会話の中に、セクハラの内容が入っている					
		人が不快と思うことは、行わない					
	1	1●自動車整備士の使命 1 __ 自動車整備士としての社会的使命					
		夢の実現					
		資格の重要性について					
		「自動車整備士」の資格が必要とされる職業に関して					
		整備士の資格が必要な理由					
	1	16●刑法 2 __ 薬物、盗難、闇バイト、時事ニュース、留学生犯罪					
		薬剤師による、薬物に関する講話					
	1	19●ハラスメント 2 __ パワハラ、セクハラ等					
		後期スタート					
		ハラスメントについて再徹底					
		1 7 ●刑法 3 __ 薬物、盗難、闇バイト、時事ニュース、留学生犯罪					
		後期スタート					
		刑法について再徹底					
	1	1●労働安全衛生規則第 3 6 条「特別教育を必要とする業務」「タイヤの空気充てん業務」					
		外部講師による「特別教育」 空気充てん時における事故防止VTR					
	1	1●労働安全衛生規則第 3 6 条「特別教育を必要とする業務」「タイヤの空気充てん業務」					
		外部講師による「特別教育」					

シラバス

教科	学科 101 自動車工学	科目	自動車総論Ⅱ		対象級	専門課程		作成月日	25/04/01	
	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年					開講期	前期			
教科担当	駒崎勝紀・木野内英和・渡部孝昭・塩川楓・河智是明・大石尚輝・浅井直道（一級自動車整備士） 前田優佑・成松樹生・小川 幸雄・君塚真之佑									
実務経験教員授業	非該当	総時限	17	授業方法	講義	評価方法	学科試験			
〔授業概要・目的〕										
・二級自動車整備士（総合）試験の2級、3級に出題される総論・工学の計算問題を解けるようになる。										
〔授業の到達目標〕										
・出題される計算問題（総論・工学）を理解し、問題を解く知識を身につける。										
・計算問題を解くための単位・公式を覚え、計算問題方法を理解する。										
〔学習評価の基準〕										
・試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点										
・学科試験の点数が60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。										
〔使用教科書・教材等〕										
・計算を解くノウハウ（整研出版社）、パワーポイント資料、プリント資料、i-Pad										
授 業 計 画 表									No.1	
実務経験	標準時限	授業内容（項目）								
	2	■自動車総論Ⅰ	SI単位と用語、荷重の計算Ⅰ							
	2	■自動車総論Ⅱ	荷重の計算Ⅱ、圧力の計算							
	2	■自動車総論Ⅲ	ギヤ比の計算							
	2	■自動車総論Ⅳ	性能曲線の計算Ⅰ、性能曲線の計算Ⅱ							
	2	■自動車総論Ⅴ	走行性能の計算							
	2	■自動車総論Ⅵ	トルクの計算、排気量関係の計算							
	2	■自動車総論Ⅶ	電気の計算、基礎工学の復習							
	2	■自動車総論 総復習	STEP1からSTEP7までの問題を総合復習							
	1	■自動車総論試験	STEP1からSTEP7までの理解度を確認する							

シラバス

教科	学科 101	科目	応用パワーユニット 1	対象級	専門課程	作成月日	25/04/01			
	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2 年				開講期	前期				
教科担当	駒崎勝紀・木野内英和・渡部孝昭・塩川楓・浅井直道（一級自動車整備士） 君塚真之佑									
実務経験教員授業	非該当	総時限	26	授業方法	講義	評価方法		期末試験		
〔授業概要・目的〕										
ガソリン・エンジンの各装置（二級自動車整備士（総合）のエンジン領域）の構造・機能及び電気装置の仕組みを理解する。										
〔授業の到達目標〕										
・エンジン（総論、本体、バルブ機構）の構造、役割を理解する。										
・各装置（潤滑、冷却、燃料、点火、吸排気）の構造、役割を理解する。										
・電気装置、電子制御の役割、機能を理解する。										
〔学習評価の基準〕										
・試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点										
・学科試験の点数が60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。										
・学科試験の点数が60点～69点の場合は特別再試験を行う。										
〔使用教科書・教材等〕										
二級自動車整備士（総合）【日本自動車整備振興会連合会】、パワーポイント資料、i-Pad										
授 業 計 画 表									No.1	
実務経験	標準時限	授業内容（項目）								
	4	応用 P 1（学科） 1	エンジン総論、エンジン本体、バルブ機構の構造・役割							
	4	応用 P 1（学科） 2	潤滑装置、冷却装置の構造・役割							
	4	応用 P 1（学科） 3	燃料装置、点火装置、吸排気装置の構造・役割							
	4	応用 P 1（学科） 4	半導体、バッテリーの構造・役割							
	4	応用 P 1（学科） 5	電子制御の構造・役割・機能							
	4	応用 P 1（学科） 6	始動装置、充電装置の構造・役割							
	2	応用 P 1（学科） 7	STEP 1 からSTEP 6 までの問題を総合復習							

シラバス

教科	学科 101	科目	応用パワーユニット2	対象級	専門課程	作成月日	25/04/01
	自動車工学				サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年	開講期	前期
教科担当	駒崎勝紀・木野内英和・渡部孝昭・塩川楓・浅井直道（一級自動車整備士） 君塚真之佑						
実務経験教員授業	非該当	総時限	20	授業方法	講義	評価方法	
〔授業概要・目的〕							
ガソリン、ジーゼル・エンジン及びハイブリッド自動車の各装置（二級自動車整備士（総合））の機能・構造及び仕組みを理解する。							
〔授業の到達目標〕							
・ガソリン・エンジンの機能、構造、排気ガス対策等の仕組みを理解する。							
・ジーゼル・エンジンの機能、構造、排気ガス対策等の仕組みを理解する。							
・ハイブリッド車及び電気自動車の機能、構造を理解する。							
〔学習評価の基準〕							
・試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
・学科試験の点数が60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
・学科試験の点数が60点～69点の場合は特別再試験を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
二級自動車整備士（総合）【日本自動車整備振興会連合会】、パワーポイント資料、i-Pad							
授 業 計 画 表							
No.1							
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
	4	応用 P 2（学科）1	予熱装置、吸排気装置、燃料装置の機能・構造				
	4	応用 P 2（学科）2	燃料、潤滑油の機能・役割				
	4	応用 P 2（学科）3	ガソリンエンジン排気ガス対策、ジーゼルエンジン排気ガス対策の機能・構造・役割				
	4	応用 P 2（学科）4	ガソリンエンジン故障原因探求、ジーゼルエンジン故障原因探求				
	2	応用 P 2（学科）5	ハイブリッド自動車及び電気自動車の機能・構造				
	2	応用 P 2（学科）6	STEP 1 からSTEP 4 までの問題を総合復習				

シラバス

教科	学科 101	科目	応用シヤシ	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2 年	作成月日	25/04/01			
	自動車工学					開講期	前期			
教科担当	河智是明・大石尚輝・浅井直道（一級自動車整備士） 前田優佑・成松樹生・小川 幸雄									
実務経験教員授業	非該当	総時限	26	授業方法	講義	評価方法	学科試験	期末試験		
〔授業概要・目的〕										
車両の保安基準適合性や車両の動力伝達等（二級自動車整備士（総合）のシヤシ領域）の構造、機能、作動を理解する。										
〔授業の到達目標〕										
・走行抵抗と駆動力、駆動力と走行性能の関係 動力伝達装置の概要、構造・機能の理解										
・アクスル・サスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ及びホイール・アライメントの概要、構造・機能の理解										
・電気装置、										
・保安基準										
〔学習評価の基準〕										
・試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点										
・学科試験の点数が60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。										
・学科試験の点数が60点～69点の場合は特別再試験を行う。										
〔使用教科書・教材等〕										
二級自動車整備士（総合）【日本自動車整備振興会連合会】、パワーポイント資料、i-Pad										
授 業 計 画 表									No.1	
実務経験	標準時限	授業内容（項目）								
	4	応用C（学科）1	総論、保安基準適合性確保の点検Ⅰ（12か月点検）							
	4	応用C（学科）2	動力伝達装置Ⅰ（クラッチ・遊星歯車式AT）							
	4	応用C（学科）3	動力伝達装置Ⅱ（CVT・差動装置・二輪関係）、電気装置（多重通信）							
	4	応用C（学科）4	アクスル及びサスペンション、電気装置（安全装置）							
	4	応用C（学科）5	ホイール及びタイヤ							
	4	応用C（学科）6	ステアリング装置、スキャン・ツール、電気装置（計器）							
	2	応用C（学科）7	STEP1からSTEP6までの問題を総合復習							

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

教科	学科 105 自動車整備に 関する法規	科目	自動車法規		対象級	専門課程		作成月日	2025/5/15	
	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年					開講期	前期			
教科担当	駒崎勝紀・木野内英和・渡部孝昭・塩川楓・河智是明・大石尚輝・浅井直道（一級自動車整備士） 前田優佑・成松樹生・小川 幸雄・君塚真之佑									
実務経験教員授業	非該当	総時限	11	授業方法	講 義	評価方法	学科試験	期末試験		
〔授業概要・目的〕										
・自動車整備士に必要な法規（道路運送車両法、道路運送車両法の保安基準）を理解し、実践できるようになる。										
〔授業の到達目標〕										
・自動車整備士として業務を実施する上で関係する法令を理解する。										
・教科書の内容、用語などを実車写真及び過去問をもとに理解する。										
〔学習評価の基準〕										
・試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点										
・学科試験の点数が60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。										
〔使用教科書・教材等〕										
法令教材【公論出版】、パワーポイント資料、i-Pad										
授 業 計 画 表									No.1	
実務経験	標準時限	授業内容（項目）								
	1	法規Ⅰ	1. 自動車の種類 2. 登録制度							
	1	法規Ⅱ	3. 保安基準 4. 点検整備制度							
	1	法規Ⅲ	5. 検査制度 6. 認証制度							
	1	法規Ⅳ	7. 指定制度 8. その他							
	1	法規Ⅴ	『Ⅰ 車両法』の総合復習							
	1	法規Ⅵ	1. 自動車の構造 2. 自動車の装置（原動機及びシャシ関係）							
	1	法規Ⅶ	3. 自動車の装置（車体関係） 4. 自動車の装置（公害防止関係）							
	1	法規Ⅷ	5. 自動車の装置（灯火関係） 6. 自動車の装置（運転操作）							
	1	法規Ⅸ	7. 緊急自動車等							
	1	法規Ⅹ	『Ⅱ 保安基準』の総合復習							
	1	自動車法規 試験	STEP1からSTEP10までの理解度を確認する							

シラバス

教科	実習 203 自動車整備作業	科目	応用パワーユニット1	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年	作成月日	25/04/01
	開講期					前期	
教科担当	駒崎勝紀・木野内英和・渡部孝昭・塩川楓・浅井直道（一級自動車整備士） 君塚真之佑						
実務経験教員授業	該当	総時限	26	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 元・期末試験 レポート評価
〔授業概要・目的〕							
・エンジン領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。							
〔授業の到達目標〕							
・HDS（外部診断機）の操作方法を理解し、操作ができるようになる。							
・オシロスコープの操作方法を理解し、センサ、アクチュエータの波形を読めるようになる。							
・直列3気筒（E07）のタイミングベルトの脱着作業が指定時間内に実施できるようになる。							
・電気装置、点火装置の電気の流れ、電圧の有無を推測し測定に相違が無いようになる。							
〔学習評価の基準〕							
・試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
・レポートの評価：5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）							
・試験点数の評価：5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
〔使用教科書・教材等〕							
二級自動車整備士（総合）【日本自動車整備振興会連合会】、パワーポイント資料、i-Pad、電子モジュールシート							
授 業 計 画 表							No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
○	4	実応P 1－1	導入（実習授業の進め方、注意点等を理解する）				
○	4	実応P 1－2	外部診断機（HDS）の機能、操作方法				
○	4	実応P 1－3	オシロスコープの操作方法、冷却装置の構造・機能・電気回路の理解				
○	4	実応P 1－4	直列 3 気筒のタイミングベルト脱着作業、電気回路の電圧測定				
○	4	実応P 1－5	V型 6 気筒のタイミングベルト脱着作業、電気回路の電圧測定				
○	4	実応P 1－6	点火装置の機能・構造の理解、実車での測定作業				
○	2	実応P 1－7	STEP 1 からSTEP 6 までの授業内容を総合復習				

シラバス

教科	実習 203 自動車整備作業	科目	応用パワーユニット2	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年	作成月日	25/04/01
	開講期					前期	
教科担当	駒崎勝紀・木野内英和・渡部孝昭・塩川楓・浅井直道（一級自動車整備士） 君塚真之佑						
実務経験教員授業	該当	総時限	30	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 期末試験 レポート評価
〔授業概要・目的〕							
・エンジン領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。							
〔授業の到達目標〕							
・ジーゼル・エンジンの機能、構造を理解し、分解組付、測定作業より理解度を高める。							
・吸排気装置（ターボ・チャージャ）の機能、構造を理解し、点検整備、走行テストより理解度を高める。							
・充電装置の機能、構造、作動を理解し、点検、測定作業より理解度を深める。							
・点検項目の内容、点検方法を理解し、実施できるようになる。							
〔学習評価の基準〕							
・試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
・レポートの評価：5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）							
・試験点数の評価：5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
〔使用教科書・教材等〕							
二級自動車整備士（総合）【日本自動車整備振興会連合会】、パワーポイント資料、i-Pad、電子モジュールシート							
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
実務経験	標準時限	項目	授業内容（項目）				
○	4	実応 P 2－1	GD320（ジーゼル汎用機）の分解組付け及び測定作業				
○	4	実応 P 2－2	始動装置(車両)の機能・構造及び電気回路の測定作業				
○	4	実応 P 2－3	ターボチャージャの機能・構造の理解、走行テストによるデータ測定				
○	4	実応 P 2－4	サプライポンプ（単体部品）の分解組み立て、ジーゼルの構造・機能の確認				
○	4	実応 P 2－5	充電装置(車両)の機能・構造及び電気回路の測定作業				
○	4	実応 P 2－6	KD1（エンジン単体）の分解組み立て及び測定作業				
○	4	実応 P 2－7	点検整備①（受付、点検作業、整備説明）				
○	2	実応 P 2－8	STEP 1 からSTEP 7 までの授業内容を総合復習				

シラバス

教科	実習 203 自動車整備作業	科目	応用シャシ	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年	作成月日	25/04/01
	開講期					前期	
教科担当	河智是明・大石尚輝・浅井直道（一級自動車整備士） 前田優佑・成松樹生・小川 幸雄						
実務経験教員授業	該当	総時限	26	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 期末試験 ノート評価
〔授業概要・目的〕							
・シャシ領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。							
〔授業の到達目標〕							
・基本的な整備手順、点検方法を理解し、実施できるようになる。							
・電気装置の構造、機能、作動を理解し、点検、測定作業より理解度を高める。							
・日産 4 ATの機能、構造、作動を理解し、分解組付、部品を確認することで理解度を高める。							
〔学習評価の基準〕							
・試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
・レポートの評価：5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）							
・試験点数の評価：5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
〔使用教科書・教材等〕							
二級自動車整備士（総合）【日本自動車整備振興会連合会】、パワーポイント資料、i-Pad、電子モジュールシート							
授 業 計 画 表							No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
○	4	実応C 1	導入（実習授業の進め方、注意点等を理解する）				
○	4	実応C 2	シャシ基礎整備①（基本的な作業所作、及び機器の使用を理解し習得する）				
○	4	実応C 3	12か月点検①				
			（12ヶ月点検整備項目の内容及び点検要領（日常点検含む）の理解と実践）				
○	4	実応C 4	灯火＆保安装置（灯火装置の構造・機能の理解）				
○	4	実応C 5	日産 4 A T ①（プラネタリギヤの基本作動及び各部の名称と働きの理解）				
○	4	実応C 6	日産 4 A T ②				
			（各レンジの作動と働き（1～4速、1速固定、2速固定、Rレンジ）の理解）				
○	2	実応C 7	STEP 1 からSTEP 6 までの授業内容を総合復習				

シラバス

教科	実習 203 自動車整備作業	科目	総合パワーユニット	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2 年	作成月日	25/04/01		
	開講期					後期			
教科担当	駒崎勝紀・木野内英和・渡部孝昭・塩川楓・浅井直道（一級自動車整備士） 君塚真之佑								
実務経験教員授業	該当	総時限	30	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験	期末試験	レポート評価
〔授業概要・目的〕									
・エンジン領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。									
〔授業の到達目標〕									
・電気安全の一般的な知識と電気自動車等の整備作業を理解し、実施できるようになる。									
・各システム装置の不具合について総合的な判断より故障原因を探求することができる。									
・点検項目の内容、点検方法を理解し、実施できるようになる。									
〔学習評価の基準〕									
・試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。									
・レポートの評価：5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）									
・試験点数の評価：5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点									
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。									
〔使用教科書・教材等〕									
二級自動車整備士（総合）【日本自動車整備振興会連合会】、パワーポイント資料、i-Pad、電子モジュールシート									
授 業 計 画 表									No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）							
○	4	実総 P 1	導入（実習授業の進め方、注意点、車両の取扱い等を再確認する）						
○	4	実総 P 2	救急法の習得、低圧活線作業						
○	4	実総 P 3	故障探求①（エンジン不調の車両について故障探求、整備説明を実施）						
○	4	実総 P 4	故障探求②（始動装置に関連した故障探求、整備説明を実施）						
○	4	実総 P 5	故障探求③（充電装置に関連した故障探求、整備説明を実施）						
○	4	実総 P 6	点検整備②（受付、点検作業、整備説明）						
○	4	実総 P 7	故障探求④（様々なシステムの異常探求、整備説明を実施）						
○	2	実総 P 8	STEP 1 からSTEP 7 までの授業内容を総合復習						

シラバス

教科	実習 203 自動車整備作業	科目	総合シャシ	対象級	専門課程	作成月日	25/04/01
	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年				開講期	後期	
教科担当	河智是明・大石尚輝・浅井直道（一級自動車整備士） 前田優佑・成松樹生・小川 幸雄						
実務経験教員授業	該当	総時限	30	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 期末試験 レポート評価
〔授業概要・目的〕							
・シャシ領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。							
〔授業の到達目標〕							
・24か月点検の点検記録簿を確認し、点検作業ができるようになる。							
・検査機器の使い方、調整方法を理解し、実施できるようになる。							
・Honda Cars（販売店）で使用するe-Dealer & PIT管理の操作ができるようになる。							
・各システム装置の不具合について総合的な判断より故障原因を探求することができる。							
〔学習評価の基準〕							
・試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
・レポートの評価：5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）							
・試験点数の評価：5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
〔使用教科書・教材等〕							
二級自動車整備士（総合）【日本自動車整備振興会連合会】、パワーポイント資料、i-Pad、電子モジュールシート							
授 業 計 画 表							No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
○	4	実総C1	24か月点検①（24ヶ月点検作業と指定整備記録簿の理解と記入方法の習得）				
○	4	実総C2	24か月点検②（24ヶ月点検作業と指定整備記録簿の理解と記入方法の習得）				
○	4	実総C3	検査ライン（検査機器の使用方法和調整作業の習得）				
○	4	実総C4	故障探求①（HDS及びサーキットテストを用いての故障診断の実践による習得）				
○	4	実総C5	e-Dealer & PIT管理②（e-Dealer & PIT管理の復習）				
○	4	実総C6	接客応対（接客対応（実践的ロールプレイ）の実践）				
○	4	実総C7	故障探求②（HDS及びサーキットテストを用いての故障診断の実践による習得）				
○	2	実総C8	STEP1からSTEP7までの問題を総合復習				

シラバス

教科	実習 203 自動車整備作業	科目	整備作業シャシ	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年	作成月日	25/04/01
	開講期					後期	
教科担当	河智是明・大石尚輝・浅井直道（一級自動車整備士） 前田優佑・成松樹生・小川 幸雄						
実務経験教員授業	該当	総時限	30	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 期末試験 ノート評価
〔授業概要・目的〕							
・シャシ領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。							
〔授業の到達目標〕							
・24か月点検の点検記録簿を確認し、点検作業ができるようになる。							
・トランスミッション、エンジンの基本点検（オイル交換及び付随作業、ストール回転の点検）を理解し実施できる。							
・Honda Cars（販売店）で使用するe-Dealer & PIT管理の操作ができるようになる。							
・各システム装置の不具合について総合的な判断より故障原因を探求することができる。							
〔学習評価の基準〕							
・試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
・レポートの評価：5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）							
・試験点数の評価：5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
〔使用教科書・教材等〕							
二級自動車整備士（総合）【日本自動車整備振興会連合会】、パワーポイント資料、i-Pad、電子モジュールシート							
授 業 計 画 表							No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
○	4	実整C 1	24か月点検③（24ヶ月点検作業と指定整備記録簿の理解と記入方法の習得）				
○	4	実整C 2	トランスミッション・エンジンの基本点検（ストール回転の点検、回転速度テスト）				
			作業習熟度チェック（ブレーキ・オーバーホール、外部診断機の操作）				
○	4	実整C 3	e-Dealer & PIT管理③（e-Dealer & PIT管理の復習）				
○	4	実整C 4	故障探求②（灯火装置部品の脱着・交換の習得）				
○	4	実整C 5	エンジン脱着①（車両よりエンジンを取り外す 1日目）				
○	4	実整C 6	エンジン脱着②（車両へエンジンを取り付ける 2日目）				
○	4	実整C 7	故障探求（各システム装置の部品脱着・交換の習得）				
○	2	実整C 8	STEP 1 からSTEP 7 までの問題を総合復習				

シラバス

教科	実習 203 自動車整備作業	科目	実践力養成		対象級	専門課程		作成月日	25/04/01
	一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2 年					開講期	通期		
教科担当	駒崎勝紀・木野内英和・渡部孝昭・塩川楓・河智是明・大石尚輝・浅井直道（一級自動車整備士） 前田優佑・成松樹生・小川 幸雄・君塚真之佑								
実務経験教員授業	非該当	総時限	44	授業方法	実習・実技	評価方法			
〔授業概要・目的〕									
・必要な知識や技術を実践的な授業及びコンテストや外部展示会等を通して、知識や技術を習得しや自分の考えをまとめ発表で									
〔授業の到達目標〕									
・サービス技術コンクールや外部展示会を見学することで、必要な知識や技術を学び自分の考えを発表できる									
・4 輪、2 輪の実践整備作業及び整備説明を実践しできるようになる									
・点検整備、									
〔学習評価の基準〕									
〔使用教科書・教材等〕									
二級自動車整備士（総合）【日本自動車整備振興会連合会】、パワーポイント資料、i-Pad									
新人サービススタッフの基本学習（ハード編、ソフト編）									
授 業 計 画 表									No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）							
	2	課題説明会、課題準備	課題発表の仕方、見学会の説明						
			見学会の事前準備						
	2	見学会	外部会場（サービス技術コンクール等）の見学をする						
	10	課題準備	課題発表のための資料作り						
	2	課題発表	自分たちの考えをまとめたものを発表する						
	4	4輪実践 1	外部診断機（HDS）を使用した基本的な故障探求及び交換作業を実施						
	4	4輪実践 2	車両より部品脱着（燃料タンク等）を実施						
	4	2輪実践 1	車両よりエンジン脱着を実施						
	4	2輪実践 2	2 4 カ月点検整備作業を実施						
	4	4輪 点検整備	点検整備及び基本的な部品交換（エンジンオイル、ワイパーラバー等）を実施						
	4	2輪 点検整備	点検整備及び基本的な部品交換（エンジンオイル等）を実施						
	4	実践作業	実践授業で実施してきた点検整備作業の習得度を確認する						

シラバス

教科	実習 203 自動車整備作業	科目	整備作業パワーユニット		対象級	専門課程	作成月日	25/04/01	
	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年					開講期	後期		
教科担当	駒崎勝紀・木野内英和・渡部孝昭・塩川楓・浅井直道（一級自動車整備士） 君塚真之佑								
実務経験教員授業	該当	総時限	30	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験	期末試験	レポート評価
〔授業概要・目的〕									
・エンジン領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。									
〔授業の到達目標〕									
・電気安全の一般的な知識と電気自動車等の整備作業を理解し、実施できるようになる。									
・各システム装置の不具合について総合的な判断より故障原因を探求することができる。									
・点検項目の内容、点検方法を理解し、実施できるようになる。									
〔学習評価の基準〕									
・試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。									
・レポートの評価：5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）									
・試験点数の評価：5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点									
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。									
〔使用教科書・教材等〕									
授 業 計 画 表									No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）							
○	4	実整 P 1	故障探求⑤（エンジン不調の車両について故障探求、整備説明を実施）						
○	4	実整 P 2	故障探求⑥（データより故障個所の推測、原因を推測、エンジン部品の脱着作業）						
○	4	実整 P 3	ハイブリッド車の構造・機能の理解及び構成部品の脱着作業						
○	4	実整 P 4	F20C（ベンチエンジン）の分解組付作業及び測定点検						
○	4	実整 P 5	アクティエンジンの取り外し作業 1日目						
○	4	実整 P 6	アクティエンジンの取り付け作業 2日目						
○	4	実整 P 7	点検整備③（受付、点検作業、整備説明）						
○	2	実整 P 8	STEP1からSTEP7までの授業内容を総合復習						

シラバス

教科	実習 203 自動車整備作業	科目	モビリティ技術	対象級	専門課程		作成月日	25/04/01
	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年				開講期	前期		
教科担当	駒崎勝紀・木野内英和・渡部孝昭・塩川楓・河智是明・大石尚輝・浅井直道（一級自動車整備士） 前田優佑・成松樹生・小川 幸雄・君塚真之佑							
実務経験教員授業	該当	総時限	16	授業方法	実習・実技	評価方法	レポート評価	
〔授業概要・目的〕								
・Hondaの最新技術、運転支援システムなどを点検整備、作動確認などを実施することで理解度を深める								
〔授業の到達目標〕								
・Honda先進安全技術を理解し、どのように取り組んでいくかを考え発表できるようになる。								
・Honda SENSINGの機能、構造、作動を理解し、点検作業、調整作業を実施することで理解度を高める。								
・ハイブリッド車、電気自動車の構造、機能、作動を理解し、点検作業、整備作業を実施することで理解度を高める。								
・Hondaの取組みについて学び、実践、作業を通して理解度を高める。								
〔学習評価の基準〕								
・試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
・レポートの評価：5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）								
〔使用教科書・教材等〕								
授 業 計 画 表								No.1
実務経験	標準時限	項目	授業内容（項目）					
○	4	実M技術C 1	先進安全技術 思考授業					
			HONDA SENSINGの取扱い					
			CMBS、パーキングパイロットの機能及び作動					
○	4	実M技術C 2	レーダーエイミング					
			カメラエイミング					
			4輪アライメントテスター					
			電動サーボブレーキ					
○	4	実M技術P 1	自動車（EV、ガソリン車、ハイブリッド）の機能・構造					
			自動車（EV、ガソリン車、ハイブリッド）の操作・点検整備					
○	4	実M技術P 2	T S Sの機能、操作方法					
			T S Sを使用した接客（ロープレ）					

シラバス

教科	実習 204 自動車検査作業	科目	自動車検査	対象級	専門課程 サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2 年	作成月日	25/04/01
	開講期					前期	
教科担当	河智是明・大石尚輝・浅井直道（一級自動車整備士） 前田優佑・成松樹生・小川 幸雄						
実務経験教員授業	非該当	総時限	30	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 期末試験 レポート評価
〔授業概要・目的〕							
・シャシ領域の各装置について、構造、機能、整備作業について実習を通じて理解度を高める。							
・各作業における中間検査、完成検査の手順を理解する。							
〔授業の到達目標〕							
・12か月点検の点検記録簿を確認し、点検作業ができるようになる。							
・シャシ領域（エアコン装置、パワーステアリング、大型ブレーキ等）の構造、機能、点検方法を理解し、実施できるようになる。							
・Honda Cars（販売店）で使用するe-Dealer & PIT管理の操作ができるようになる。							
・各システム装置の不具合について総合的な判断より故障原因を探求することができる。							
〔学習評価の基準〕							
・試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
・レポートの評価：5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）							
・試験点数の評価：5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
〔使用教科書・教材等〕							
二級自動車整備士（総合）【日本自動車整備振興会連合会】、パワーポイント資料、i-Pad、電子モジュールシート							
授 業 計 画 表							No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
	4	実検査 1	シャシ基礎整備②（作業所作、及び機器及び専用工具の使用を理解し習得する）				
	4	実検査 2	エアコン①（構造・機能の理解（冷凍サイクルの理解））				
	4	実検査 3	12か月点検②				
			（12ヶ月点検整備項目の内容及び点検要領（日常点検含む）の理解と実践）				
	4	実検査 4	パワー・ステアリング①（EPSの構造の理解と脱着作業に伴う調整項目の実践と理解）				
	4	実検査 5	パワー・ステアリング②（ロータリバルブ式ギヤBOXの構造、名称及び作動の理解）				
			大型ブレーキ（フルエア式・エア油圧式ブレーキの構造・各部の名称及び作動の理解）				
	4	実検査 6	シャシ基礎整備③（12ヶ月点検整備項目の内容及び点検要領の理解と実践）				
	4	実検査 7	e-Dealer & PIT管理（e-Dealer & PIT管理システムの概要の理解）				
	2	実検査 8	STEP 1 からSTEP 7 までの問題を総合復習				

シラバス

教科	一般 303	科目	安全運転学			対象級	専門課程		作成月日	25/04/01
	サービスエンジニア学科・ 一級自動車整備学科・ 研究開発学科 2年						開講期	通期		
教科担当	駒崎勝紀・木野内英和・渡部孝昭・塩川楓・河智是明・大石尚輝・浅井直道（一級自動車整備士） 前田優佑・成松樹生・小川 幸雄・君塚真之佑									
実務経験教員授業	非該当	総時限	10	授業方法	実習・実技	評価方法				評価無し
〔授業概要・目的〕										
・自動車業界の一員であることを自覚し、交通社会において安全運転の実践と普及（アドバイス）することが出来るようになる。 （ライディングアドバイザー（二輪）、セーフティコーディネーター（四輪）の資格を取得する）										
〔授業の到達目標〕										
・日常運転時の危険予知トレーニングを通して、安全運転の実践とアドバイスが出来るようになる。 ・安全運転の思想（人間尊重）から、整備時の安全に対する作業の重要性を理解する。 ・教育プログラムを通じて、規律の大切さや他人との協調性を養う。										
〔学習評価の基準〕										
〔使用教科書・教材等〕										
・安全運転教育テキスト ・交通教育センターレインボー埼玉教習車両（二輪、四輪） ・i-Pad、KYTレポート用紙										
授 業 計 画 表										No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）								
		■ライディングアドバイザー								
	2	二輪コース（1日目）	安全な乗り方のアドバイス方法を習熟							
			救急法：気道確保、止血、AEDの使用法実践							
	2		車両の取り回し方法実践							
			二人乗りアドバイス方法の習熟							
	4	二輪コース（2日目）	慣熟走行							
			ブレーキング：目標制動、パイロンスラローム、タンデム走行、ABS/CBS体験							
			反応制動：生理的限界の確認							
			コーナリング：オフセットスラローム							
		■セーフティコーディネーター								
	4	4輪コース（1日目）	静的実技：日常点検・運転姿勢・乗降車・視死角							
			ブレーキング：急制動・反応制動							
	4	4輪コース（2日目）	車両感覚：車庫入れ・縦列駐車							
			ロールプレイ：店頭安全運転アドバイス要領							
		■共有								
	1	危険予知トレーニング①	交通事故、交通違反をしないために自分達がどうすべきかを考える							
	1	危険予知トレーニング②	交通事故、交通違反をしないために自分達がどうすべきかを考える							

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	自動車電気・電子		対象級	専門課程 一級自動車整備学科 3年	作成月日 開講期	25/04/01 前期
教科担当	豊田 剛 （1級自動車整備士）							
実務経験教員授業	非該当	総時限	18時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験 期末試験	
〔授業概要・目的〕								
1. 電気の基礎知識を復習することで、1級自動車整備士の電子制御装置理解の基礎とする								
〔授業目標〕								
・国家試験、電子電気回路の計算問題が解ける								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）								
〔使用教科書・教材等〕								
1級自動車整備士 エンジン電子制御装置、補助テキスト								
授 業 計 画 表								N o . 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）						
	1	導入						
	1	電気の基礎 オーム、回路抵抗&計算・電気の基礎復習						
	1	電気の基礎 磁気、電磁力、電磁誘導 ・コイルとコンデンサに対する交流の特徴						
	1	電気の基礎 半導体・半導体の基礎復習						
	1	電気の基礎 F E T、磁気抵抗、圧電素子・バイポーラトランジスタとFETの違い						
	1	電気回路・断線、短絡時の各部の電圧						
	6	サーキット・テストの種類・分圧回路、分流回路の理解・テスト内部抵抗を考慮した計算・測定						
	1	オシロスコープの活用・電圧と時間の概念、トリガーの概念の理解						
	1	外部診断機の活用・基本的な取り扱いと機能・データリスト、D T Cの確認						
	2	総合復習						
	1	期末試験						
	1	期末試験見直し						

シラバス

大教科目	学科 自動車工学	小教科目	新材料・新技術		対象級	専門課程 一級自動車整備学科 3年	作成月日 開講期	25/04/01 後期
教科担当	川崎 智仁（1級自動車整備士）							
実務経験教員授業	非該当	総時限	24時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験 期末試験	
〔授業概要・目的〕								
1. 1級教科書「自動車新技術」に記載の新機構について理解する								
〔授業目標〕								
・1級整備士の筆記試験合格レベルの新技術に関する知識を習得する								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）								
〔使用教科書・教材等〕								
1級自動車整備士 自動車新技術								
授 業 計 画 表								No. 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）						
	2	ハイブリッド車・概要、特徴、構造、機能						
	2	ハイブリッド車・作動、盛業、点検、整備						
	2	CNG自動車（圧縮天然ガス自動車）・概要、構造、機能						
	2	CNG自動車（圧縮天然ガス自動車）・作動、盛業、点検、整備						
	2	筒内噴射式ガソリン・エンジン・概要、構造、機能						
	2	コモンレール式高圧燃料噴射システム・DE燃料噴射装置の復習・電子制御式とコモンレール構造機能						
	1	総合復習						
	1	単元試験						
	1	単元試験見直し						
	2	無段変速機（CVT）・概要、構造、機能						
	2	車両安定制御装置・ABS構造、機能・VSCS構造、機能						
	2	SRSエアバッグ及びプリテンショナーシートベルト・概要、構造、機能						
	1	総合復習						
	1	期末試験						
	1	期末試験見直し						

シラバス

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	総合診断技術		対象級	専門課程 一級自動車整備学科 3年	作成月日	25/04/01
	開講期						前期	
教科担当		川崎 智仁（1級自動車整備士）						
実務経験教員授業		非該当	総時限	24時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験 単元・期末試験
〔授業概要・目的〕								
1．1級自動車整備士として、各、センサーやアクチュエータの回路構成を理解する。								
2．各、センサーやアクチュエータ回路の信号波形を理解し、適した測定方法を理解する。								
〔授業目標〕								
・回路構成の仕組みを理解し、理論的な診断技術を習得する。								
・外部診断機のデータ内容から故障診断が出来る技術を習得する。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）								
〔実務経験のある教員による授業〕								
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、								
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。								
〔使用教科書・教材等〕								
1級 エンジン電子制御装置 SE2級ハード編								
授 業 計 画 表							No.1	
実務経験	標準時限	授業内容（項目）						
	2	高度診断技術・導入・概要説明・基礎振り返り						
	4	・センサ①（論理信号、リニア信号）						
	4	・センサ②（周波数信号、その他信号）						
	1	単元試験						
	1	単元試験見直し						
	4	・アクチュエータ①（プラス駆動、マイナス駆動、スイッチング駆動）						
	4	・アクチュエータ②（リニア駆動、その他）						
	2	総合復習						
	1	期末試験						
	1	期末試験見直し						

シラバス

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	総合診断技術			対象級	専門課程 一級自動車整備学科 3年	作成月日 開講期	25/04/01 後期
教科担当	久保 雅照（1級自動車整備士）								
実務経験教員授業	該当	総時限	10時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験 期末試験		
自動車整備に関する実務経験を有する教員が、必要な作業方法・知識について、実務経験を活かし、より実践的な授業を行う。									
〔授業概要・目的〕									
1. 1級自動車整備士として、お客様個人の不満や、さまざまな感情に的確に対応し効果的な会話の進め方を									
習得すると共に問診での高度診断の方法の習得する。									
〔授業目標〕									
・サービスアドバイザーの役割、内容を知り、整備作業以外の重要なポイントを理解。									
・お客様に対する問診・作業説明・応酬話法等についての知識を理解する。									
〔学習評価の基準〕									
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。									
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの									
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点									
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。									
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）									
〔実務経験のある教員による授業〕									
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、									
実務経験を活かしより実践的内容を指導し授業を行う。									
〔使用教科書・教材等〕									
一級自動車整備士 総合診断・環境保全・安全管理									
授 業 計 画 表									No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）							
○	1	サービス産業の概要							
○	4	自動車整備事業におけるサービスの提供							
○	4	自動車関連法令などの適切な運用とその活用							
○	1	応酬話法							
	1	期末試験							
	1	期末試験見直し							

シラバス

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	応用整備技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 3年	作成月日	25/04/01
						開講期	前期
教科担当	奥原 進 （1級自動車整備士）						
実務経験教員授業	該当	総時限	19時限	授業方法	講義	評価方法	評価なし
自動車整備に関する実務経験を有する教員が、必要な作業方法・知識について、実務経験を活かし、より実践的な授業を行う。							
〔授業概要・目的〕							
1. 電気・電子回路、部品に実際に触れ、実際の電子制御回路の理解を深める。							
〔授業目標〕							
・電子パーツ、半導体等の構造、機能、特徴を理解できる。							
・オペアンプの使い方が理解できる。							
・簡単な回路設計ができる。							
〔学習評価の基準〕							
この科目については、試験やレポート等での評価はせず、授業出席し聴講により履修とする。							
〔使用教科書・教材等〕							
電装品構造、PC、回路シミュレータソフト、ブレッドボード、電子パーツ、オシロスコープなど							
授 業 計 画 表							N o . 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
○	4	電気・電子回路の基本となるオームの法則を理解する。					
○	3	オペアンプの理解とオペアンプを使用した三角波発振回路の原理を理解する。					
○	2	回路設計ソフトを使い三角波発振回路を設計設計した回路を回路シミュレータソフトで作動確認する。					
○	2	設計した回路を実際にブレッドボードで組み立てて、オシロスコープで波形を観測する。					
○	2	ブレッドボードで試作した回路を基盤設計ソフトで基盤設計する。					
○	4	設計を行った基盤を実際に基盤上で作成する。					
○	2	出来上がった基盤を電動カートに実装し走らせる。					

シラバス

大教科目	学科 自動車整備		応用整備技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 3年	作成月日 開講期	25/04/01 後期
教科担当	川崎 智仁（1級自動車整備士）						
実務経験教員授業	非該当	総時限	36時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験 期末試験
〔授業概要・目的〕							
1. 1級シャシ電子制御装置の内容を理解し、技術の習得を行う。							
〔授業目標〕							
・A T、E P S、A B S、オートA／Cの各センサ、アクチュエータの信号波形を理解する。							
・1級シャシの各項目での仕組みを理解し、理論的な診断技術を習得する。							
・1級エンジンでのE C Uの働きを、CAN通信の高度故障診断技術を習得する。							
・国家1級自動車整備士の1級シャシ高度整備技術、高度故障診断を合格レベルまで理解する。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
1級シャシ電子制御装置 1級エンジン電子制御装置							
授 業 計 画 表							N o . 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
	6	一級 電子制御A T・回路構成、センサ、アクチュエータ、ECUの制御、故障診断					
	6	一級 電子制御E P S・回路構成、センサ、アクチュエータ、ECUの制御、故障診断					
	2	復習					
	1	単元試験					
	1	単元試験見直し					
	6	一級 電子制御A B S・回路構成、センサ、アクチュエータ、ECUの制御、故障診断					
	6	一級 電子制御A C・回路構成、センサ、アクチュエータ、ECUの制御、故障診断					
	4	一級エンジン・C A N、E C U・CAN通信、ECUの制御、故障診断技術					
	2	復習					
	1	期末試験					
	1	期末試験見直し					

シラバス

大教科目	学科 自動車整備	小教科目	環境安全論		対象級	専門課程 一級自動車整備学科 3年	作成月日 開講期	25/04/01 前期
教科担当	川崎 智仁（1級自動車整備士）							
実務経験教員授業	非該当	総時限	16時限	授業方法	講義	評価方法	学科試験 期末試験	
〔授業概要・目的〕								
1. 1級整備士の要件としての環境問題に対応できる知識を学ぶ								
〔授業目標〕								
・環境問題に対する法令を理解できる。								
・1級自動車整備士の国家試験問題内容を理解できる。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）								
〔使用教科書・教材等〕								
1級自動車整備士 総合診断・環境保全・安全管理								
授 業 計 画 表								N o . 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）						
	1	自動車に関わる環境問題						
	1	資源の有効活用、産業廃棄物処理						
	1	自動車リサイクル法						
	1	フロン回収と破壊処理						
	1	バッテリー処理						
	1	整備工場の環境対応						
	1	ホンダの取り組み						
	1	地球環境の現状と影響						
	3	安全管理の意義、災害のあらし						
	1	職場における防火防災、応急処置について						
	2	総合復習						
	2	期末試験、期末試験見直し						

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

授 業 計 画 (シ ラ バ ス)

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	整備技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 3年	作成月日	25/04/01
						開講期	前期
教科担当	久保 雅照（1級自動車整備士）、宇賀 広章（1級自動車整備士）						
実務経験教員授業	該当	総時限	70時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 レポート評価
実務経験を有する教員が、必要な作業方法・知識について、実務経験を活かし、より実践的な授業を行う。							
〔授業概要・目的〕							
1. 1級教科書「エンジン電子制御装置」に記載の内容について理解し、技術を学ぶ。							
電源、センサ、アクチュエータ、信号電圧、異常検知、故障診断							
〔授業目標〕							
・電源、センサ、アクチュエータ、信号電圧、異常検知、故障診断の仕組みを実物で理解する。							
・オシロスコープ、外部診断機を活用し、測定ができる。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場に必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
1級自動車整備士 エンジン電子制御装置							
授 業 計 画 表							N o . 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
○	4	センサ回路の確認・点検 1					
		・導入、機器取り扱い オシロスコープの取扱 HDSの取扱 スイッチボックスの取扱					
○	4	センサ回路の確認・点検 2					
		・ECU電源 論理信号センサ 異常検知とDTCの確認					
		・等価回路の確認 センサ出力値の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
○	4	センサ回路の確認・点検 3					
		・リニア信号センサ① 異常検知とDTCの確認					
		・等価回路の確認 センサ出力値の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
○	4	センサ回路の確認・点検 4					
		・リニア信号センサ② 異常検知とDTCの確認					
		・等価回路の確認 センサ出力値の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	整備技術	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 3年	作成月日 開講期	25/04/01 前期
授 業 計 画 表							N o . 2
○	4	センサ回路の確認・点検 5					
		・周波数信号センサ① 異常検知とD T Cの確認					
		・等価回路の確認 センサ出力値の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
○	4	センサ回路の確認・点検 6					
		・周波数信号センサ② 異常検知とD T Cの確認					
		・等価回路の確認 センサ出力値の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
○	4	センサ回路の確認・点検 7					
		・その他のセンサ 異常検知とD T Cの確認					
		・等価回路の確認 センサ出力値の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
○	6	センサまとめ					
		・これまでのセンサについてまとめ、総合復習を行う。					
○	4	アクチュエータ回路の確認・点検 1					
		・スイッチング駆動アクチュエータ① 異常検知とD T Cの確認					
		・等価回路の確認 駆動電圧、駆動信号電圧の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
○	4	アクチュエータ回路の確認・点検 2					
		・スイッチング駆動アクチュエータ② 異常検知とD T Cの確認					
		・等価回路の確認 駆動電圧、駆動信号電圧の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
○	4	アクチュエータ回路の確認・点検 3					
		・スイッチング駆動アクチュエータ③ 異常検知とD T Cの確認					
		・等価回路の確認 駆動電圧、駆動信号電圧の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
○	4	アクチュエータ回路の確認・点検 4					
		・スイッチング駆動アクチュエータ④ 異常検知とD T Cの確認					
		・等価回路の確認 駆動電圧、駆動信号電圧の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
○	4	アクチュエータ回路の確認・点検 5					
		・リニア駆動アクチュエータ① 異常検知とD T Cの確認					
		・等価回路の確認 駆動電圧、駆動信号電圧の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
○	4	アクチュエータ回路の確認・点検 6					
		・リニア駆動アクチュエータ② 異常検知とD T Cの確認					
		・等価回路の確認 駆動電圧、駆動信号電圧の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
○	4	アクチュエータ回路の確認・点検 7					
		・リニア駆動アクチュエータ③ 異常検知とD T Cの確認					
		・等価回路の確認 駆動電圧、駆動信号電圧の確認 オシロスコープでの波形観測 DTC検知手法の確認					
○	8	アクチュエータまとめ					
		・これまでのアクチュエータについてまとめ、総合復習を行う。					

シラバス

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	故障診断		対象級	専門課程 一級自動車整備学科 3年	作成月日 開講期	25/04/01 後期
教科担当	久保 雅照（1級自動車整備士）							
実務経験教員授業	該当	総時限	40時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験	レポート評価
自動車整備に関する実務経験を有する教員が、必要な作業方法・知識について、実務経験を活かし、より実践的な授業を行う。								
〔授業概要・目的〕								
1. 1級教科書「シャシ電子制御装置」に記載の内容について理解し、技術を学ぶ。								
電源、センサ、アクチュエータ、信号電圧、異常検知、故障診断								
〔授業目標〕								
・電源、センサ、アクチュエータ、信号電圧、異常検知、故障診断の仕組みを実物で理解する。								
・オシロスコープ、外部診断機を活用し、測定ができる。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）								
〔実務経験のある教員による授業〕								
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、								
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。								
〔使用教科書・教材等〕								
1級自動車整備士 シャシ電子制御装置								
授 業 計 画 表								No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）						
○	8	シャシ電子制御AT センサ回路/アクチュエータ回路の測定・故障診断						
○	8	シャシ電子制御EPS センサ回路/アクチュエータ回路の測定・故障診断						
○	4	見直し						
○	8	シャシ電子制御ABS センサ回路/アクチュエータ回路の測定・故障診断						
○	8	シャシ電子制御A/C センサ回路/アクチュエータ回路の測定・故障診断						
○	4	見直し						

シラバス

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	応用整備実務		対象級	専門課程 一級自動車整備学科 3年	作成月日 開講期	25/04/01 前期
教科担当	豊田 剛（1級自動車整備士）、川崎 智仁（1級自動車整備士）□							
実務経験教員授業	非該当	総時限	36時限	授業方法	講義	評価方法	実習試験	レポート評価
実務経験を有する教員が、必要な作業方法・知識について、実務経験を活かし、より実践的な授業を行う。								
〔授業概要・目的〕								
1. 一般整備作業を通じ技術力、スピード力を身に付ける。								
〔授業目標〕								
・パーツリスト指示工数以内での、確実な整備作業を行える。								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。								
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）								
〔実務経験のある教員による授業〕								
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、								
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。								
〔使用教科書・教材等〕								
各車両サービスマニュアル等								
授 業 計 画 表								No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）						
	4	実習導入						
	4	一般整備作業① 内装取り外し						
	4	一般整備作業② 内装組み付け						
	4	一般整備作業③ サスペンション、ブレーキ分解						
	4	一般整備作業④ サスペンション、ブレーキ組み付け						
	4	一般整備作業⑤ エンジン取り外し整備作業						
	4	一般整備作業⑥ エンジン取り付け整備作業						
	4	一般整備作業⑦ HEVユニット取り外し整備作業						
	4	一般整備作業⑧ HEVユニット取り付け整備作業						

シラバス

大教科目	実習 自動車整備作業	小教科目	応用整備実務	対象級	専門課程 一級自動車整備学科 3年	作成月日	25/04/01
						開講期	後期
教科担当	豊田 剛（1級自動車整備士）、川崎 智仁（1級自動車整備士）□						
実務経験教員授業	非該当	総時限	44時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験 レポート評価
実務経験を有する教員が、必要な作業方法・知識について、実務経験を活かし、より実践的な授業を行う。							
〔授業概要・目的〕							
1. 一般整備作業をを通じ技術力、スピード力を身に付ける。							
〔授業目標〕							
・パーツリスト指示工数以内での、確実な整備作業を行える。							
〔学習評価の基準〕							
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。							
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの							
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点							
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。							
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）							
〔実務経験のある教員による授業〕							
自動車整備士として実務経験のある教員が、整備現場で必要な作業方法・知識について、							
実務経験を活かしてより実践的内容を指導し授業を行う。							
〔使用教科書・教材等〕							
授 業 計 画 表							
No.1							
実務経験	標準時限	授業内容（項目）					
	4	一般整備作業① デファレンシャルの脱着と調整					
	4	一般整備作業② ストラット、リヤビーム脱着					
	4	一般整備作業③ 排気システムの全脱着					
	4	一般整備作業④ ターボシステムの脱着					
	16	一般整備作業⑤ 分解組み立てから性能確認					
	4	一般整備作業⑥ 足回り分解					
	4	一般整備作業⑦ 足回り組み立て・ホイールアライメント調整					
	4	総合復習					

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

教科	学科 自動車概論	科目	自動車概論Ⅱ		対象級	専門課程 一級自動車整備学科 4年	作成月日	25/04/01
						開講期	前期	
教科担当	春日男太（1級自動車整備工）、田中 満広（1級自動車整備工） 岡地智行（1級自動車整備士）							
実務経験教員授業	該当	総時限	52時限	授業方法	講 義	評価方法	単元・期末試験	
〔授業概要・目的〕								
1級教科書 ・エンジン電子制御装置 ・シャシ電子制御装置 ・自動車新技術 ・総合診断/環境保全/安全管理 ・法令教材の内容を復習、理解を深める								
〔授業の到達目標〕								
1級小型自動車整備士、筆記試験合格レベルの知識を習得する								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。 5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの 各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点 60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。 レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普 通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）								
〔使用教科書・教材等〕								
1級教科書 ・エンジン電子制御装置 ・シャシ電子制御装置 ・自動車新技術 ・総合診断/環境保全/安全管理 ・法令教材 ホンダ学園学習ツール（ネット教材）								
授 業 計 画 表								No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）						
○	2	実力確認試験（令和6年度登録試験）						
○	2	自動車概論基礎項目(計算)確認						
○	15	エンジン電子制御装置(電気回路、診断装置、センサ、アクチュエータ、CAN通信、ECUの制御)						
○		故障診断 復習						
○	16	シャシ電子制御装置(AT、EPS、ABS、AC、振動・騒音)、故障診断 復習						
	2	中間試験						
○	4	エンジン系新技術(ハイブリッド、CNG、筒内噴射、コモン・レール) 復習						
○	4	シャシ系新技術(CVT、車両安定制御装置、SRS) 復習						
○	4	環境保全・安全管理 復習						
○	4	法令(道路運送車両法、保安基準) 復習						
	2	期末試験						

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

教科	実務実習 評価実習	科目	総合実習			対象級	専門課程 一級自動車 整備学科4年	作成月日	25/04/01
								開講期	前期
教科担当	田中満広（1級自動車整備士）、春日勇太（1級自動車整備士） 岡地智行（1級自動車整備士）、沖田健二（1級自動車整備士）								
実務経験教員授業	該当	総時限	82時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験		
自動車整備に関する実務経験を有する教員が、必要な作業方法・知識について、実務経験を活かし、より実践的な授業を行う。									
〔授業概要・目的〕									
軽作業から重作業まで実際に現場で想定される整備技術の習得									
オシロスコープやサーキット・テストを活用した診断方法の習得(交流波形の測定、コイル・コンデンサの測定)									
実車によるHDSの習得									
〔授業の到達目標〕									
構造を確認し効率の良い作業が出来ること									
コイルのインダクタンス、リアクタンスを理解する。コンデンサの容量計算ができること									
HDS（外部診断機）を使用しセンサ、アクチュエータの電圧が確認できること									
真の実効値、平均値実効値方式のテストの理解、使い分けが出来ること									
オシロスコープによる交流波形測定を習得するオシロスコープを操作し交流波形が測定できること									
〔学習評価の基準〕									
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「5・4・3・2・1」の5段階で表わす。									
5：特に成績優秀なもの 4：成績良のもの 3：成績普通のもの 2：成績やや劣るもの 1：成績特に劣り、不合格のもの									
各試験点数の評価は 5：90～100点 4：75～89点 3：60～74点									
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。									
レポートの評価は 5：非常に優れている 4：優れている 3：普通 2：やや劣る 1：劣る（再提出の必要がある）									
〔使用教科書・教材等〕									
電子マニュアル、オシロスコープ、サーキットテスト、HDS 他									
授 業 計 画 表									No.1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）							
○	8	ドライブ・シャフト、サスペンション、ボールジョイント分解構造確認							
○	8	トランスミッション脱着(シビック)							
○	8	エアコン部品の脱着，構造確認（N-BOX）							
○	8	EPSシステム分解構造確認（N-BOX）							
○	8	SRSEA・バッグシステム分解構造確認(シビック)							
○	4	ドライブレコーダー取付(FIT)							
○	14	振動・騒音実習（ステップワゴン，スパイク，N-BOX，FIT，シビック）							
○	8	スライドドア脱着(ステップワゴン、N-BOX)							
○	4	コイルの特性、交流抵抗 インダクタンス、リアクタンスの理解							
○	4	コンデンサの特性、特性の理解、容量の計算							
○	4	実車センサ、アクチュエータ作動確認 HDS故障診断							
○	4	オシロによる交流波形の測定、 真の実効値、平均値実効値方式の理解							

シラバス

教科	実務実習 評価実習	科目	総合実習		対象級	専門課程 一級自動車整備学科 4年	作成月日	25/04/01
							開講期	後期
教科担当	田中満広（１級目動車整備工）、春日男太（１級目動車整備工） 岡地智行（１級自動車整備士）、沖田健二（１級自動車整備士）							
実務経験教員授業	該当	総時限	80時限	授業方法	実習・実技	評価方法	実習試験	
〔授業概要・目的〕								
実車にて故障作成、故障診断								
オシロスコープによる各信号確認手法を習得する								
e-Dealerを活用しながら点検整備をする								
ホンダＳＥ２級を取得するための実習を行う								
〔授業の到達目標〕								
故障コードなしの電気回路・機械的故障の作成が出来、問診からの故障絞込み、テスト活用による故障診断が出来ること								
オシロスコープを操作し各信号波形が測定できること								
e-Dealerを活用し版社と同様の作業が出来ること								
ＳＥ２級合格レベルの車両確認、故障診断が出来ること								
〔学習評価の基準〕								
各試験点数の基準、レポート評価及授業の取り組みを総合して、「５・４・３・２・１」の５段階で表わす。								
５：特に成績優秀なもの　４：成績良のもの　３：成績普通のもの　２：成績やや劣るもの　１：成績特に劣り、不合格のもの								
各試験点数の評価は　５：90～100点　４：75～89点　３：60～74点								
60点未満の場合は再試験を行う。尚、再試験後の評価は試験規程による。								
レポートの評価は　５：非常に優れている　４：優れている　３：普通　２：やや劣る　１：劣る（再提出の必要がある）								
〔使用教科書・教材等〕								
電子サービスマニュアル、ＳＥ２級テキスト（ハード編）　他								
授　業　計　画　表								N o . 1
実務経験	標準時限	授業内容（項目）						
○	8	ＴＳＳ実践研修（故障探求）						
○	8	電装系装備の構造理解　　オシロスコープによる信号確認（シビック）　PPIによる資料作成						
○	8	電装系装備の構造理解　　オシロスコープによる信号確認（N-BOX）　PPIによる資料作成						
○	8	電気系故障診断						
○	8	点検整備　　　e-Dealerの活用　　実践に則した点検整備実習						
○	16	ＳＥ２級実習　　　ＳＥ２級テキストに則した　車両確認、故障診断手法の習得						
○	8	ＳＥ１級実習　　　ソフト領域のロールプレイング						
○	16	板金塗装実習						

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]

シラバス

[illegible]